

---

会社名 三光産業株式会社（7922）

---

説明内容 平成18年3月期決算

説明要旨 I. 三光産業のご紹介  
II. 平成18年3月期決算概要

## I. 三光産業のご紹介

### ○事業の内容及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和42年に方南工場、57年に川越工場、60年に大阪工場と自社工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械やAV関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVDといったソフト関係へ展開してまいりました。国内の事業基盤を固めると共に、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和63年にマレーシア工場を、平成13年に香港に子会社光華産業有限公司を設立、また平成15年に中国に深セン工場を設置いたしました。

### ○当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTIONラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAXやコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。現在では電池パック、CD-R、DVD等のソフト関係にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約4万点、1日の取扱い品目は2,000点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。また、粘着剤やインクを扱うため環境問題にも配慮をしております。ISO14000の環境基準に準拠した製品作りを基本とし、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

### ○経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の経営理念を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お客様からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

### ○当期のトピックス

2005年9月 サニービジョン（映像システム）の企画・販売開始

2005年9月 ISO9001認証取得

## Ⅱ.平成 18 年 3 月期決算概要

### ◎ 損益計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	05/3 期		06/3 期		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額
売上高	11,367	100.0	11,761	100.0	394
AV 機器関連	(3,943)	(34.7)	(3,632)	(30.9)	(△311)
OA 機器関連	(3,702)	(32.6)	(4,441)	(37.8)	(739)
その他電気機器関連	(1,450)	(12.8)	(1,453)	(12.4)	(3)
輸送用機器関連	(934)	(8.2)	(981)	(8.3)	(47)
その他	(1,335)	(11.8)	(1,252)	(10.6)	(△83)
売上総利益	2,255	19.8	2,326	19.8	71
営業利益	457	4.0	552	4.7	95
経常利益	481	4.2	622	5.3	141
当期純利益	203	1.8	393	3.3	190

2006 年 3 月期の業績に関しましては、増収、増益の結果となっております。

○売上高に関しましては、引続き顧客企業の海外への生産シフトが続くなかで、主力の印刷加工品に加え成型加工品分野にも営業活動を推進いたしました結果、売上高 11,761 百万円と前期比 3.5%増加いたしました。

部門別売上高を見ますと、次のとおりであります。

- ・AV 機器関連は、DVD、デジタル機器向けの受注量の減少により売上高 3,632 百万円前期比 7.9%減少。
- ・OA 機器関連は、外構部品や付属機器の増加が寄与し売上高 4,441 百万円前期比 20.0%増加。
- ・その他電気機器関連は、売上高 1,453 百万円前期比 0.2%増加。
- ・輸送用機器関連は業界の好況により受注量が増加し、981 百万円前期比 5.0%の増加。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連を中心に売上高 1,252 百万円前期比 6.2%減少。

○ 売上総利益は、取り組み拡大中の成型加工分野で生産効率の向上を図っているため 19.8%と前期に比べ変化はありませんが、今後はこれの引き上げが課題であります。

○ 営業利益は 552 百万円、売上高に対する比率 4.7%で前期 4.0%に比べ 0.7%増加しております。

○ 営業外では為替差益が前期比 37 百万円増加した他、前期に計上しました事業保険掛金解約損 17 百万円がなかったため、経常利益は 622 百万円前期比 29.4%増加となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	05/3 期	06/3 期	増減額
流動資産	(8,885)	(8,976)	(91)
現金及び預金	3,911	4,251	339
売上債権	4,043	3,821	△222
棚卸資産	802	771	△31
その他流動資産	127	132	5
固定資産	(5,397)	(5,518)	(121)
資産合計	(14,283)	(14,495)	(212)
流動負債	(2,908)	(2,648)	(△260)
買入債務	2,229	1,994	△235
その他流動負債	679	654	△25
固定負債	(380)	(378)	(△2)
退職給付引当金	227	190	△37
その他固定負債	153	187	34
負債合計	(3,289)	(3,026)	(△262)
少数株主持分	(242)	(276)	(34)
資本合計	(10,751)	(11,193)	(441)
負債・資本合計	(14,283)	(14,495)	(212)

2006年3月期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当期末における流動資産の残高は 8,976 百万円（前年同期 8,885 百万円）となり、91 百万円増加いたしました。これは、売上高が増加し、売掛金の回収が順調に推移し、現金及び預金が増加したこと等によるものです。
- 当期末における固定資産の残高は 5,518 百万円（前年同期 5,397 百万円）となり、121 百万円増加いたしました。これは、主に投資有価証券が期末の時価評価等により、153 百万円増加したことによるものです。
- 当期末における流動負債の残高は買入債務等の減少により 2,648 百万円（前年同期 2,908 百万円）となり、260 百万円減少しております。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が 40%と高いことが原因であります。
- 当期末における資本の残高は 11,193 百万円（前年同期 10,751 百万円）となり、441 百万円増加いたしました。これは、当期純利益計上に伴う利益剰余金（前年同期 6,755 百万円から当期末 7,036 百万円へ 281 百万円増）の増加及びその他有価証券評価差額金（前年同期 100 百万円から当期末 184 百万円へ 84 百万円増）の増加等によるものであります。なお、自己株式の期末残高は、11,715 株、8 百万円であります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	05/3 期	06/3 期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	549	763	213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,187	△368	818
財務活動によるキャッシュ・フロー	△106	△103	2
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	30	25
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△739	321	1,060
現金及び現金同等物の期首残高	4,511	3,764	△747
連結除外による現金及び現金同等物の減少高	△8	—	8
現金及び現金同等物の期末残高	3,764	4,085	321

当会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ 321 百万円増加し、当会計期間末には 4,085 百万円となりました。

当会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は 763 百万円（前年同期比 213 百万円増）となりました。これは、税金等調整前当期純利益が 699 百万円計上されましたが、法人税等の支払が 248 百万円発生したこと等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は 368 百万円（同 818 百万円減）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が 261 百万円発生したこと等によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は 103 百万円（同 2 百万円減）となりました。これは主に親会社による配当金の支払が 95 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

（単位：百万円）

	印刷方式	生産実績		投資額
		05/3 期	06/3 期	
方南工場	シール主体	345	365	3
千曲川工場	輪転機主体	796	718	10
川越工場	オフセット主体	1,291	1,155	25
大阪工場	シール・シルク主体	1,050	1,177	5
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	914	1,091	30
中国シンセン	シール・シルク・輪転機主体	155	411	49
三光プリンティング	シール主体	329	325	30
合計		4,880	5,242	152

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

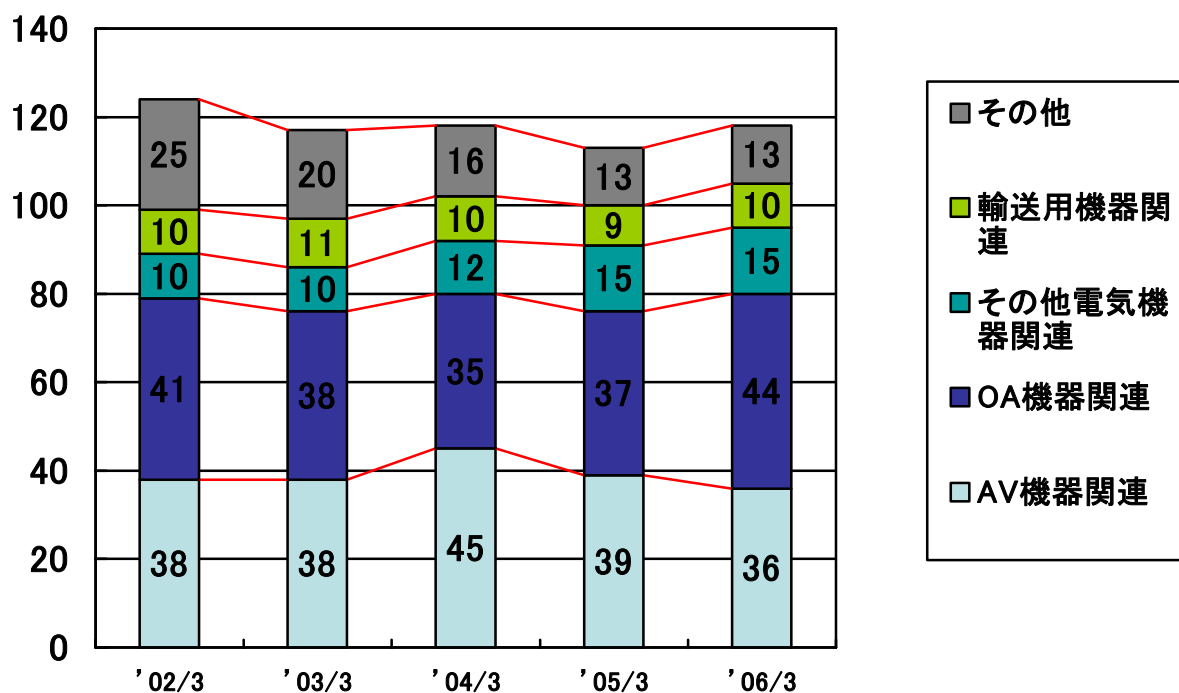
2006年3月期の自社工場生産額は、総生産額5,242百万円で売上高に対する生産比率は44.6%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては当期工場全体で152百万円ですが、主なものは川越工場への設備機械及び中国シンセン工場への追加投入機械類であります。

## 業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



業種別売上高の過去5年間の推移であります。

- ・AV機器関連につきましては、ピーク時DVD関連の特殊需要により45億円であったものが、当期はピーク時の特殊要因が落ち込んだ結果36億円に止まりました。
- ・OA機器関連については、携帯電話器、デジタルカメラ向け等需要が増加し、当期は44億円となりました。
- ・その他につきましては、ピーク時25億円から当期13億円と減少いたしました。子供向け遊戯カード、広告物、玩具類等の減少によるものです。

### ◎ 平成19年3月期の業績予想について（連結）

今後の経済見通しにつきましては、引続き景気は好調を維持するもの予想されますが、原油高や円相場など不安要素もあり景気の持続力を注視する展開になるものと予想されます。

電気機器業界におきましては、IT化・デジタル化の伸展により、新製品の多様化、スピード化が一段と進んでおりますので、当社といたしましたは、適確な設備投資と技術力向上への取組みを強化し対応を図ってまいりますと共に、品質管理の徹底・生産性の向上、コスト競争力の強化などを一層推進し、収益力の一層の向上を目指してまいります。

通期の業績につきましては、連結ベースで売上高12,300百万円、経常利益660百万円、当期純利益370百万円を予想しております。

以上